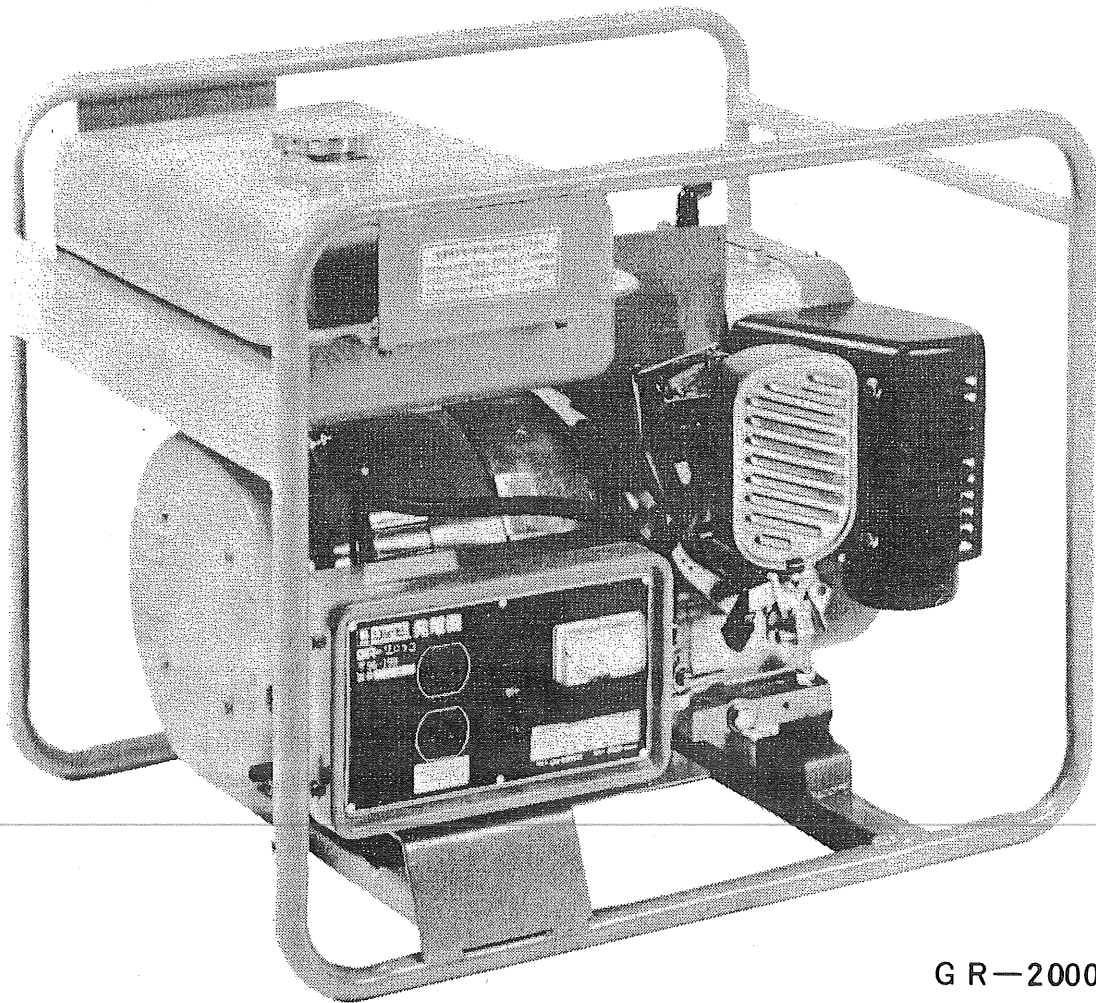


発電機

取扱説明書 G R-1300 / G R-2000 / G R-2700



G R-2000

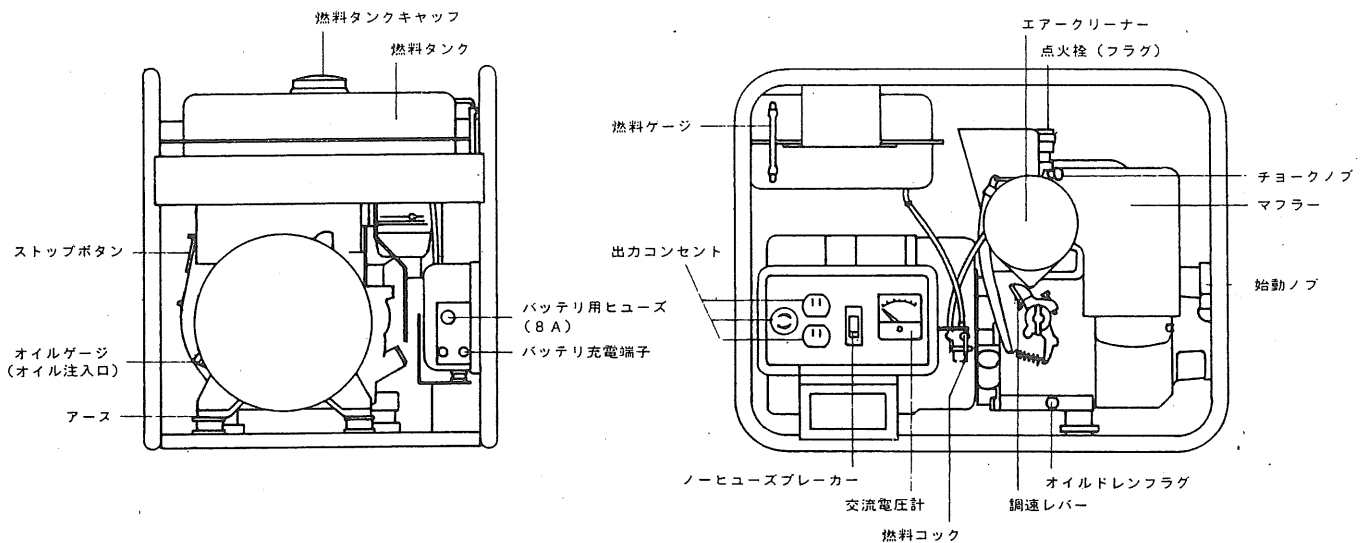
ご使用前に本取扱説明書をよくご覧の上ご使用くださるようお願いいたします。

●仕様

総合型式		GR-1300		GR-2000		GR-2700	
電気用品承認No.		▽96-200	▽96-199	▽96-200	▽96-199	▽96-206	▽96-198
発電機	型式	GRF-1.1	GRF-1.3	GRF-1.7	GRF-2.0	GRF-2.4	GRF-2.7
	励磁方式	2極回転界磁型、AVR付静止励磁方式					
	定格出力	单相1.1Kw	单相1.3Kw	单相1.7Kw	单相2.0Kw	单相2.4Kw	单相2.7Kw
	定格電圧	100V	110V	100V	110V	100V	110V
	定格電流	11A	11.8A	17A	18.2A	24A	24.5A
	定格周波数	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz
	定格回転数	3000 r.P.m.	3600 r.P.m.	3000 r.P.m.	3600 r.P.m.	3000 r.P.m.	3600 r.P.m.
	力率	1.0					
	定格	連続					
	バッテリー 充電電源	96W-DC12V-8A (直流 12V・8A)					
エンジン	名称	EY15D(富士重工)		EY20D(富士重工)		EY25(富士重工)	
	型式	空冷4サイクル立形側弁式ガソリンエンジン					
	シリンダ数 内径×行程	1-63×46mm		1-67×52mm		1-72×62mm	
	総排気量	1.43CC		1.83CC		2.52CC	
	定格出力	2.2PS/3000r.p.m.	2.7PS/3600r.p.m.	3.0PS/3000r.p.m.	3.5PS/3600r.p.m.	4.5PS/3000r.p.m.	5.0PS/3600r.p.m.
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン					
	燃料タンク容量	約5.5ℓ		約10ℓ			
	潤滑油量	約0.6ℓ		約0.6ℓ		約0.85ℓ	
	调速方式	遠心重錘式					
	始動方式	リコイルスタータ式					
寸法 長さ×幅×高さ	560×375×440mm		615×450×495mm		660×470×510mm		
乾燥重量	約33kg		約43kg		約55kg		

●各部の名称

ここに使用している図は、GR-2700を示してあります。



※エンジン関係について、詳しくはエンジンの取扱説明書をご覧ください。

●ご使用の前に

本機は工場を出荷するとき厳重な検査に合格した製品です。念のためご使用前に、各部に破損している個所はないか、又ネジやナットのゆるみはないかを点検してください。

1 ガソリンの補給

燃料は自動車の無鉛ガソリンをご使用ください。運転に必要な量を燃料タンクに入れてください。(容量は2P参照)

- 燃量を入れる時「ゴミ」が入らないように必ず燃料タンクキャップの個所に付属してある「コシアミ」を使ってください。
- 周囲にこぼれた燃料はきれいにふきとってください。着火して大きな事故となる事があります。
- 燃料は「コシアミ」に指示された個所以上入れないでください。

※運転中の燃料補給は大変危険ですので絶対に行なわないでください。

2 エンジンオイルの点検・補給

オイルが規定量入っているか点検してください。点検は検油棒をネジ込まず差し込んだ状態で「きざみ線」の間にいつも油量を保つようにしてください。(詳しくはエンジンの取扱い説明書をごらんください) エンジンオイルは市販品の自動車用エンジンオイルをご利用下さい。

3 過負荷保護装置の確認

過負荷保護装置として、GR-1300 (50/60Hz) はヒューズが、またGR-2000 (50Hz/60Hz)、GR-2700 (50Hz/60Hz) はノーヒューズブレーカーを装備しております。

エンジンを始動する前にGR-2000 (50Hz/60Hz)、GR-2700 (50Hz/60Hz) については、ノーヒューズブレーカーをOFFにしてください。

また、GR-1300 (50Hz/60Hz) については負荷側のスイッチがOFFになっているかどうか確認してください。

●運 転

1 始動 (エンジンの取扱説明書もごらんください。)

- 燃料ストレーナーのコックを開けてください。レバーを真下に向けると燃料が通じます。調整レバーを中間の位置にセットしてください。
- チョークレバー(ノブ)を引くとチョークが閉じます。エンジンが冷えているときは“閉” 暖まっているときは“開” または“半開き” にしてください。
- リコイルスタータの始動ノブをコンプレッションの位置までかるく引き、その後勢いよく引いてください。1回で始動しないときは数回繰返してください。始動ノブは引っぱった位置から手をはなさないで、にぎったままもどしてください。

2 暖機運転

始動後チョークレバー(ノブ)をゆっくり押込んでください。低速のままエンジンが暖まるまで、3～5分間暖機運転してください。

3 運 転

- 暖機運転後、調速レバーを徐々に高速側にし、必らずレバーがストッパーに当たったところで確実に固定してください。
- 規定回転になったら、エンジン、発電機に異常音がないか、異常な匂いがないかを確認してください。
- 電圧計を見て電圧が異常に高かったり、低くないかを確認してください。

●交流電源をご使用になるとき

本機の力率は1.0です。お使いになる負荷の種類によって無理のないようにお使いください。

各種負荷の力率表

負 荷 の 種 類	力 率
単相誘導電動機	0.4～0.75
電熱器・白熱電灯	1.0～
蛍光灯・水銀灯	0.4～0.9
電子機器・通信機器	0.9～1.0

※電気ドリルなど、電動工具をお使いになる場合は、その始動電流に注意してください。普通の電動工具の場合は、発電機定格出力(Kw)に0.8を乗じた(発電機定格出力×0.8)程度まで、お使いになれます。特に水中ポンプなどのように始動時から負荷のかかっているものについては、次表を参考にしてお使いください。

水中ポンプの運転可能台数 (出力400W未満)

	G R - 1300	G R - 2000	G R - 2700
同時 運 転 可 能 な 台 数	1	2	3

但し、G R - 2000 は同時始動を避け、順次始動してください。

またG R - 2700 は2台までは同時始動が可能です。

運転中出力コンセントとプラグの抜き差しで負荷の「ON・OFF」を行なうとコンセントの破損を早めますのでさけてください。

※白熱電灯や電熱器など抵抗負荷の場合は、定格出力まで使えます。

※蛍光灯や水銀灯など、お使いになるときは容量に注意してください。発電機定格出力(Kw)に0.6を乗じた(発電機定格出力×0.6)程度の容量まで、お使いになれます。

● バッテリー充電専用電源

(バッテリー充電端子)

本機には、単相交流電源の他に、直流12V用のバッテリー充電端子が付いています。現場でのバッテリー充電にも使用でき、一層便利に能率的に作業が進められます。

- バッテリーに充電される時は必ず充電端子の⊕とバッテリーの⊕、充電端子の⊖とバッテリーの⊖を接続して下さい。また、この場合車輻用のブースターケーブルを使用下さる様お願いします。

※出力コンセントとバッテリー充電端子との同時使用はできません。

● 停止

- 作業が終了したらGR-1300(50Hz/60Hzの(ヒューズ付き)場合は、負荷側のスイッチをOFF(切)にしてください。また、GR-2000(50Hz/60Hz)、GR-2700(50Hz/60Hz)については、ノーヒューズブレーカーをOFFにしてください。
- エンジンの回転を除々に下げ3～5分間低速運転した後ストップボタンをエンジンが停止するまで押し続けてください。

〈注意〉非常の場合以外は、高速運転時から急停止しないで下さい。

● 使用上の注意

1 排気ガスについて

排気ガス中には、有害な成分が含まれています。

隧道・暗道・洞穴および屋内で運転する場合は、排気および換気に十分注意してください。また路上等屋外で運転する場合でも排気口を人家に向けないように注意してください。

2 使用場所について

- 使用場所が小石・土・砂利等で凸凹していたり軟かい所では使用しないこと。(振動源となり発電機の故障の原因となります。)やむを得ず使用するときは発電機の下に板等を敷いてご使用ください。
- 発電機のまわりには、燃えやすいもの、危険物がないか確認してください。

3 アース端子について

本機には、アース端子が付いていますので、必要に応じてご使用ください。

4 その他

- 雨の中では使用しないこと。ぬれた手で、コンセント等を操作すると感電することがあり、大変危険です。
- 発電機を屋内配線に接続しないでください。

※発電機を屋内配線に接続して使用しますと、法規に触れるばかりでなく、感電事故の原因となったり、発電機が故障する恐れがありますので充分ご注意ください。

●保守・点検

機械をいつまでも調子良く使うため保守・点検は“こまめ”に行なってください。(詳細は、エンジンの取扱説明書もごらんください。)

1 点火栓の点検

始動しにくくなった場合の点火栓は、ワイヤブラシ等で汚れを落とし、電極間隙を0.6~0.7mm(官製ハガキ2~3枚分の厚さ)に調整してください。

2 エアークリーナの清掃

エレメントを取り外して、ガソリンで汚れが十分落ちるまで振り洗った後、しずくを切ってから、ガソリン3:オイル1の割合の混合油を塗布してください。また、汚れのひどい場合は、エレメントを交換してください。

3 燃料タンクの清掃

燃料ストレーナに水、ゴミ等がたまった場合、ストレーナの清掃はもちろん行なわなければなりません。燃料タンクを取り外して清掃してください。燃料システムの故障の大半が、ゴミ等が原因です。

4 機体の点検

油污れ、燃料洩れが無いが、ボルト・ナット等の“ゆるみ”が無い点検してください。また発電機内部のほこり等は圧縮空気で吹き飛ばしてください。

5 ブラシの点検

ブラシが摩耗していないか、なめらかに動くかどうか、加圧力はどうか点検してください。ブラシは消耗品ですので摩耗状態(残りが8mmになったら同時に両方とも)により新品と交換してください。

〈注意〉 ブラシの交換は、ブラシホルダを発電機本体よりはずして手前に持ってきてから交換してください。

〔注意事項〕

- この発電機の回転数は定格負荷時 50Hz 仕様の発電機で 3000 r. P. m.、60Hz 仕様の発電機で 3600 r. P. m. に成るよう調整されておりますのでエンジンの調速レバーのストップ位置を変えないでください。

●長時間使用しない場合

長時間運転しない場合、また長期格納する場合は次の手入れを行なってください。

- 燃料タンク内の燃料を全部抜き取り、エンジンをかけ、キャブレータ等に入っている燃料をカラにしてください。
- 点火栓を外して、オイルを数滴たらし、始動ノブを静かに一回引いてコイルスタータをまわしてください。その後点火栓を締め付けてください。
- 始動ノブを静かに引いて重くなった位置で止めてください。
- チョークレバー(ノブ)、調速レバーの摺動部、その他の光っている部分にグリースを塗って錆を防いでください。
- 各部を油布で清掃し、カバーをかけて湿気やほこりの少ない場所に保管してください。
- 月に一度はエンジンを回転させて、各部に異常がないか点検してください。

検査合格証

●この製品は、一貫した品質管理の基に組立てられ、厳密な検査に合格した製品です。

電気試験	機械検査	部品・包装

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明の点があった場合にはご遠慮なく全国各地のリョービ電動工具販売店、リョービ東和各営業所にお問い合わせ下さい。

※改良のため製品仕様がかわる事があります。

発売元



リョービ東和株式会社

〒464 名古屋市千種区春岡通り7の49
電話(052)761-5111

製造元



デンヨー株式会社

〒164 東京都中野区上高田4-2-2
電話(03)386-2176